

令和元年5月21日(火)・5月22日(水)の2日間、鳥取中部ふるさと広域連合議会で行政視察をしました。視察初日は、JR 倉吉駅一姫路(スーパーはくと)ー小倉(新幹線さくら)ー大分(ソニック)を乗り継ぎ、6時間ほどでJR 大分駅に到着しました。昼食後タクシーで視察先の大分県立美術館に到着に到着しました。

大分県立美術館は、平成27年4月に開館しました。県立美術館としては新しく、①まちづくり②芸術文化振興拠点や教育機関等との連携③多くの県民が利用可能④観光局にも利用しやすい⑤美術館のめざす方向性と調和といった視点で現在の場所に決定しました。駅から徒歩約15分とあまり遠くなく、大きな道路を挟んで自由通路でiichiko 総合文化センターとつながっています。

県立美術館建設表明から今日までの主な出来事は次の通りです。

- H 2 1. 3 基本構想の策定着手を表明
- H 2 2. 1 大分県美術館構想検討委員会設置 6回開催
- H 2 2. 1 1 県立美術館基本構想答申
- H 2 3. 5 建設場所の決定(大分市)
- H 2 5. 4 美術館建設着工
- H 2 7. 4 美術館開館
- H 2 8. 3 開館初年度の入館者数は、64.2万人



美術館のコンセプトとしては、「大分らしい美術館：自分たちの応接間」とし、①成長する美術館②四季を感じる美術館③五感を刺激する美術館としました。美術館建設にかかる事業費は、美術館本体建設費が77億、用地補償関連費、情報システム整備費、備品購入費等で22億、広報・啓発など推進費を含めると100億強です。県民の利用ということで、開館翌月には、小学生ファーストミュージアム体験事業として県内6万人の全小学生を県・県教委・県立美術館が連携して県立美術館に招待しました。



開館後の年間実入館者数は、64.2万、43.5万、64.8万(ジブリ関係展の影響)、57.2万(国民文化祭)と概ね好調です。今年度も、古代アンデス文明展、ムーミン展、名探偵コナン科学捜査展、岡本太郎展などの企画展を始め、教育普及活動などを含めて多様な活動を展開しています。ガラス張りでオープンな美術館、ゆったりとした時間と空間を楽しめる美術館、展示機能・収蔵機能・教育普及機能・憩いや交流の機能等、新しい美術館の方向性を示し、今後の鳥取県立美術館建設にも参考となります。視察終了後、翌日の視察先との関係で宿泊先は北九州市小倉でした。JR 大分駅から日豊線ソニック号で1時間18分、移動時間が実に8時間10分とハードでした。

視察2日目は、宿泊先のホテルからモノレールでJR 小倉駅へ。小倉ー新山口駅(のぞみ号)ーJR 防府駅ー防府市クリーンセンター(マイクロバス)で2時間弱の移動です。

視察先の防府市クリーンセンターは、選別視察、バイオマス化施設、ごみ焼却施設を組み合わせ高効率発電を行っている施設です。発生したバイオガスを燃焼させ、発生するボイラー蒸気により発電を行っており、発電した電力は場内で使用し、余剰電力



は FIT を用いて売電しています。なお、バイオガス施設では屎尿処理汚泥と下水汚泥を受け入れています。

鳥取中部ふるさと広域連合のごみ焼却施設は、平成8年の供用開始から16年を経過した平成24年度～26年度において基幹的整備を改修しており、今後10～12年後には次の大規模改修を行う必要が生じます。また、し尿処理施設については、施設の両休暇に加え、人口減少等により処理量も減少しており、これら施設の包括的な整備計画を策定する時期にさしかかっています。クリーンセンターで施設を視察した後、質疑を行いました。

視察後、JR 防府駅（マイクロバス）－ JR 新山口駅（山陽本線）－ JR 倉吉駅（スーパーおき号）という経路で帰ってきました。視察2日目も移動時間7時間40分となりました。

私たちのために対応をいただいた関係者の皆様に感謝するとともに、2日間で学んだことを中部地区の充実・発展のために生かして参ります。

